

Stride Ahead
100th

TERUMO

第106期 株主通信

BUSINESS REPORT

2020年4月1日～2021年3月31日

証券コード:4543

次の100年も創業の精神を引き継いで、 新しい医療に挑戦する

株主の皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、変異株の出現も相まって、いまだ世界各地で猛威を振っています。ワクチン接種は各国で段階的に進められていますが、予断を許さない状況は続いています。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

テルモは、新型コロナウイルスワクチンを一人でも多く、一日でも早く接種できるよう、筒先に薬液が残りにくい注射器「FNシリンジ」の針の長さを改良し、2021年3月から生産を開始しました。また、医療機関の感染対策に新たな価値を提供するための全社施策である「感染対策イニシアチブ」を本格的に始動いたしました。今後、医療活動の全体を捉

えた包括的なソリューションを提案し、感染制御に寄与するたくさんの製品群を機能的に活用していただくことで、医療従事者の皆様および患者さんに安心を提供し、安全で効率的な医療活動を支援してまいります。

さらに、今年度は機構改革の一環として、国内営業本部を新設しました。従来、国内成長プロジェクト「スクラム」のもとに、全社一丸で事業横断的な取り組みを進めてまいりましたが、新たなステージに移行し、成長を加速させます。コロナ禍の真只中にあった昨年度、日本市場の売上は海外市場を上回る伸びを示し、売上収益2,000億円に初めて到達、世界の連結業績を牽引する結果となりました。中長期成長戦略における重点テーマの一つとして「日本市場における成長回帰」を目指してきた中で、各事業の戦略的布石がここに結実した感があります。創業の地である日本において、医療現場をより強く支えるために、テルモの存在感を高めてまいります。

テルモは、本年9月17日に創立100周年を迎えます。今から100年前、第一次世界大戦の影響から体温計の輸入が途絶えたため、国産の良質な体温計が希求され、北里柴三郎博士をはじめとした医師らが発起人となってテルモは設立されました。そして「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念を大切に、ここまで歩んでまいりました。次の100年も創業の精神を引き継いで新しい医療に挑戦してまいります。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

2021年3月期期末の業績報告

売上収益 **6,138** 億円 前期比 **▲2.4%**

営業利益 **984** 億円 前期比 **▲11.1%**

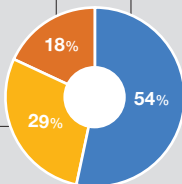
カンパニー別売上収益

血液・細胞
テクノロジーカンパニー

1,095 億円
前期比 +2.2%

ホスピタルカンパニー

1,755 億円
前期比 +2.7%



心臓血管カンパニー

3,285 億円
前期比 ▲6.3%

地域別売上収益

アジア他 **654** 億円

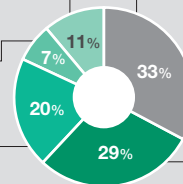
前期比 ▲10%

中国 **455** 億円

前期比 ▲4%

欧州 **1,204** 億円

前期比 ▲1%



日本 **2,018** 億円

前期比 +3%

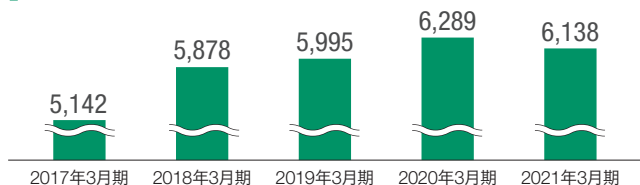
米州 **1,808** 億円

前期比 ▲6%

海外合計 **4,121** 億円 前期比 ▲5%

※構成比率は小数点以下を四捨五入しており、合計が100%とならない場合があります。

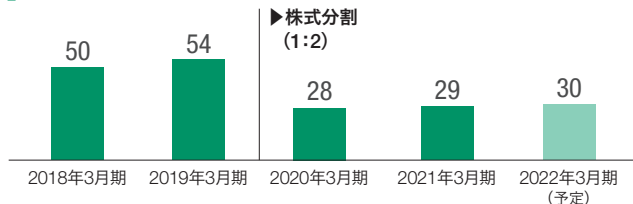
売上収益の推移 (単位: 億円)



※当社グループは2018年3月期期末決算より、国際会計基準(IFRS)を適用しています。

当期の売上収益は、日本においてはホスピタルカンパニーの感染症対策製品に対する需要増やアライアンス事業の好調等に伴い過去最高となりましたが、海外においては新型コロナウイルス感染症拡大による心臓血管カンパニーへの影響が大きく、減収となりました。

配当金の推移 (1株当たり配当金、単位: 円)



当社は、持続的かつ収益性のある成長を確保するため、利益の再投資を適かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図っていきます。株主の皆様への利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指してまいります。当期の年間配当金につきましては、1株につき29円といたします。従って、期末配当金は、すでにお支払いした中間配当金1株につき14円を差し引き、1株につき15円となります。

2022年3月期 業績見通し

売上収益 **6,700** 億円 ~ **6,800** 億円

営業利益 **1,070** 億円 ~ **1,130** 億円

2022年3月期も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による医療需要の減少が想定されます。影響を受ける地域や期間等の正確な予測が困難であるため、業績予想は売上収益および利益に幅を設けて策定しております。

今に引き継がれる、 テルモ原点の思い

Stride Ahead
100th

今年創立100周年を迎えるにあたり、改めて当社創業の原点についてご紹介します。

「衛生思想」を普及させた、国産の体温計

創業当時の日本の医療現場では、1918年に発生したスペイン風邪と、第一次世界大戦による体温計の輸入途絶の影響を受け、高品質・廉価な国産体温計が切望されていました。体温測定は健康管理の基本でありながら、まだ体温計は高価で、常備する習慣は一般家庭には十分浸透していませんでした。

このような状況下、技術者である竹内英二が経営する町工場「竹内テルモ製作所」で優秀な体温計を開発しましたが、資金繰りが厳しい状況にあり、当時の東京医師会会長であった笹川三男三(みおぞう)博士に援助を求めました。笹川博士は、医学界の重鎮であった北里柴三郎博士らの賛同を得て、竹内氏の事業を中心とした体温計製造会社の設立を構想します。また、販売に

関しては森下博薬房(のちの森下仁丹株式会社)の創業者・森下博氏等の協力も得ながら、テルモの前身である「赤線検温器株式会社」設立に至りました。その設立趣意書には、『国民の保健は衛生思想の普及』にかかっており、『国民の健康が国家安定の基礎』であるという見地からすれば、これは国家的な工業ということが出来ます。』と、設立に関わった人々の使命感が伝わっています。

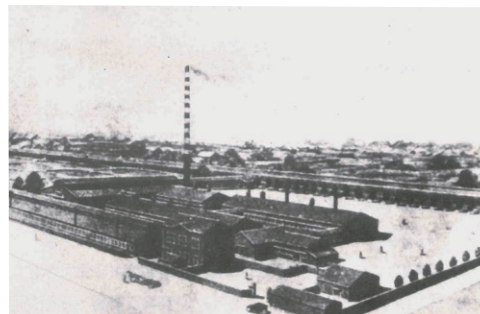
日本の一般家庭に「衛生思想」を普及させた水銀体温計は、1985年に生産を終了しましたが、医療現場から家庭まで使用者に寄り添い、使いやすさと感染対策にこだわった電子体温計へと姿を変えて、今もテルモの製品のひとつであり続けています。



テルモの歴史を刻んでいる基準器(1923年ドイツ製。温度を正確に計るとき、その基となる基準ガラス製温度計)



水銀体温計のガラス管製造の様子



大正15年頃の幡ヶ谷工場

創業の志を胸に、医療現場のニーズに応え続ける

体温計製造から始まった小さな町工場は、ドイツ語で体温計を意味する「Thermometer」を由来としたテルモという社名へと変わり、現在では3つのカンパニーと7つの事業を展開し、世界の医療現場に製品やサービスを提供しています。創業時の志は、「医療

を通じて社会に貢献する」という企業理念として、現在に受け継がれています。100年の時を経て、奇しくも世界がふたたび新たな試練に対峙する今。私たちは改めて自らの使命を胸に、これからもとどまることなく医療現場のニーズに応え続けてまいります。



社員数

単体

5,247名

連結
26,482名



生産拠点数

日本 8拠点

海外 24拠点



連結子会社数

104社



販売国・地域数

160以上



株主総会 決議内容

2021年6月22日に開催された当社第106期定時株主総会において、以下の通り決議されました。

第1号議案 剰余金処分の件

当期の期末配当金につきましては、1株につき15円となりました。これにより、中間配当金14円を加えた年間配当金は29円となりました。

第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)8名選任の件

三村孝仁、佐藤慎次郎、高木俊明、羽田野彰士、西川恭、黒田由貴子および西秀訓の7氏が再選され、小澤敬也氏が新たに選任されました。
(黒田由貴子、西秀訓、小澤敬也の3氏は、社外取締役です)

第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

中村雅一および宇野総一郎の両氏が再選され、柴崎崇紀氏が新たに選任されました。
(中村雅一、宇野総一郎の両氏は、社外取締役です)

第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

坂口公一氏が選任されました。
(坂口公一氏は、補欠の社外取締役です)

期末配当金のお支払いについて

第106期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中(2021年6月23日～2021年7月30日)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、口座振込ご指定の方には、「期末配当金計算書」および「配当金振込先ご確認」のご案内を同封いたしましたので、ご確認ください。

株式についてのご案内

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎ご連絡先(郵便物送付・電話照会)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

株主優待のご案内

ご希望者全員に「2022年テルモカレンダー」をお送りします

同封はがき、または下記ウェブサイトからご応募いただいたすべての株主様に、「2022年テルモカレンダー」をお送りします。(発送は2021年12月頃を予定)。やさしい色彩と洗練されたタッチの作品が国内外で人気のイラストレーター木内達朗氏を起用した四季の風景のカレンダーです。



※写真は2021年版です

応募サイトURL:

<https://www.enq-plus.com/enq/terumocal2022/form/>
お問い合わせ 0120-993-637(平日10～17時)



100周年記念サイトのご案内



テルモ100年の歩みや未来への挑戦についてご紹介しています。ぜひご覧ください。

テルモ100周年
記念サイト
<https://www.terumo.co.jp/100th/>



テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

北里柴三郎博士(資料提供:学校法人北里研究所)